
お笑い学院高等部

たけ10005

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お笑い学院高等部

【Nコード】

N0984F

【作者名】

たけ10005

【あらすじ】

漫才街道まっしぐらの少女の血と汗と涙の物語…のような気がする

お笑いのために（前書き）

お食事中の方は1話目だけは食事が済んだ時読んでください

お笑いのために

「脱糞だ！（だ○ふんだ）」

「いきなりナニ？」

美喜の爽やかな朝を茶色に染めてくださりやがったこのセリフを吐いた女こそ、我が母である。

お笑い学院高等部へお笑いのために（エリ○ゼのために）

「で、何？このウインナー……」

美喜は、母の焼いたウインナーを指さす。

「勝った！WIN！」

母のボケ炸裂！美喜に2億飛んで1ナノのダメージ！！

美喜は、ガタガタするひざをなんとか立ったまま突っ込む

「違うわアホ！この焦げたウインナーはなんだっての！」

「脱糞。」

キツと母を睨む美喜。

「もっしもっし母よー母さんよー お前の脳はどこにある？ガタガ

タプルプルランラン」

美喜は歌いながら母の頭を揺する

「失敗しちゃった」

「じゃないわよ！朝から漫才始めんな！」

「ひざまずいて泣いて許しを請うたら許してあげる」

ゴン！

美喜はひざまずく代わりに母に頭を下げ、高々度式頭突きをする。

遠心力と重力をノセたその一撃は、鉄板さえ紙のようにひしゃげる。そして本人は頭蓋骨が割れる。しかし問題ない。頭蓋骨など、誰でも割れ目がある。赤ちゃんなど、割れ目の間は隙間がある。

母よ、安らかに眠れ。で、もう目覚めんな。

母、登代子。享年49歳、撃・沈

「いつてきまゝす」

こうして、いきなり母という名の敵を倒して経験値が39・195
もらえてレベルが1・3上がった！

美喜は元気に漫才通りを経由して漫才学院高等学校を目指した。

これは、美喜のお笑い芸人街道という名の霸道を歩む物語をちらり、黒ハイニーソックスとピンクのミニスカートの間並みに魅せる物語である…ハズだ

お笑いのために（後書き）

1話目は日本では流行らなかった、全身真っ白のエログロナンセンス。あの演技ジャンルを連想しました。

今作でなく、今話だけの雰囲気。次回作は、一つでも感想か評価をしてくださらなかったら、連載止めます。小心者で変わり者なんでW応援お願いします！

弱竜ってダレ？（前書き）

母と漫才勝負で勝った美喜。漫才レベルも上がってチヨーハッピー

弱竜ってダレ？

ガヤ「ねえ、ねえ！昨日のアニメ”一気当然（間違っても一騎〇千ではありません）”観た？十戦^{じゅうせん}カッコいい！弱竜、超キモいんだけどw」

ガヤ2「弱竜って、十戦にキミの瞳に完敗（乾杯）って言ったヤツでしょう？弱いしwザコキャラなのに超目立ってるよねwうぜー」

お笑い学院高等部w弱竜ってダレ？w

いつもの登校。いつもの道。それなのに、今日は気分爽快 母に145戦39勝目だからかな？それとも一気当然が面白いからかな？

…あ！浮き足立ってゆっくり歩いてた！走らなきゃ！ててて…
ドン！

「いったw…」

曲がり角でぶつかった。…はっ！？まさか、恋の予感？ 恋というより変

「ごめんなさい！…あ、あなたのお名前は！？」

「痛い…千景です…って、！美喜じゃん！機嫌良いね！」

「千景！やつほ！今日、母さんに勝ってレベル1上がったからね！
って違wう！なんであんたは女なんだ！？」

「はあ？何それ？」

千景は私の親友だ。いずれはお笑いコンビ作って日本一になるんだ！でも、運命の人は女なん？…んなわけないか（笑い

「あんた、いつもお母さんに負けてこめかみにシワ寄せてるから、
今日はかわいく見えるよ！」

美喜はむw！となる。

「いつもじゃありませんw…145戦39勝してますw」

「ねえ、知ってる？怒り易いのはカルシウム不足だからだよ。カルシウム不足すると骨溶けるんだよ？」

「ちよ、ばっ！？んなわけないじゃん！なんで溶けるんだよ？」

美喜は顔を真っ赤にし、千景はそれを見て笑ってる。

「怖がってる」

「な！？こわがってなんか、ないよ？」

「怖がってんじゃないん！アハハ」

そりゃ、怖いけど、そこは怖がっちゃアカンやろ

「声に出てんですけど」

「な！？怖くない！」

美喜は首を振る。しかも縦に。

「ウソだよ！やっぱり怖がってた（笑）」

チクシヨ…

「さ、はよ学校いくで」

「まて〜！」

「また〜ん」

美喜は10005円経験値を失った！2レベルが下がった！？

二人は学校に到着。したはずだが…

『陰？』

二人はハモった。と、同時に美喜の体が浮く

「へ？…ええ〜！？」

弱竜ってダレ？（後書き）

あまりこの文がわからない方へ助け船。

Q 結局弱竜ってナニ？

A スーパーマリオブラザー○のクリボ○みたいなものです。キノコに牙が生えたク○ボーです。だから気にしないで（笑

今度はUFOなの？（前書き）

お笑いバトルで母を倒しレベルが2上がったものの、運命の出逢いは親友！？さらに会話に失敗！レベルが2下がる！そんな時、美喜に異変が！？

今度はUFOなの？

突然空に浮いた美喜。千景はハンカチを振って校舎へ。

「いや、助けてよ!？」

「えゝ？私まで連れてかれちゃうじゃん!」

千景はひよこのようなクチバシでしゃべる…じゃなく、唇でしゃべる。

「いいじゃん！一緒にあの世の果てまで〇ってQ!」

「嫌」

美喜の懇願むなしく、UFOにさらわれる。

「今度はUFOなの？」

（お前か、美喜というお笑い芸人のニワトリは）

「もう成熟してるし!？これが私の限界？」（アイ、ママ）

「軍人かい！私は指揮官じゃない!」

（じゃあ、いったい何をしたいんだ？これ以上何を望む？）

「連れてきたのはあんた達よ!？M1で優勝したい！願い叶えてくれるの!？」

（いや、聞いたただだ）

「いや、なんで？叶えろよ！そこは叶えろ!」

（神をも恐れぬその息やよし、神であるタケツチャンにおまかせ）

「神様なの!？エイリアンちゃうん!？…それに」

（それに?）

「神様はお客様や!」

（大丈夫！お客様は神のまた神様、ゼウスだから）

「さやか…ならえねんけどな」

（エセ関西弁やなあ）

「ええやん！お笑い芸人っぽいやん！（うわ！芸人様、読者様、すみません！だから石投げないで！痛い！あつ。そこっ！って！ごめんなさい、キモ良くて《！？》すみません《ペコペコ》」
（今後はワシが美喜の心にツッコミ入れるから、ツッコミ上手くなれな。）

「わかった…だからもう帰して…」

（ちっとも嬉しくなさそうだの…まあよい、さらばだ！）

美喜は、神の力を得た！（お

数学ってつまんない？（前書き）

母を肉弾戦で倒し（お笑いじゃないの！？）
お笑いレベルが低かったり高かったりしてたら神の力を得た！

数学ってつまんない？

「千景！酷い！」

ガラスと教室の扉を開けるなり、千景を確認する前に、文字通り開口一番に叫んだ。

「美喜：生きてたんだ…いえ、あなたとは今日は初めて会ったのよえっと美喜は口を開け、ビックリする。

「…え？…あ…ごめん、夢か」

（夢ではない）

「夢ではないって言ってるじゃん！」

今度は千景が口を開ける。

「誰が？」

「え？誰って…」

（神だ）

「そう！神様！」

千景は同情の視線を向ける。

「ふぁいと、だよ！」

二人は完全に頭がハテナになる。

「数学ってつまんない？」

「二次方程式を使って…そこっ！授業中に寝るな！」

ピシッとチョークを投げる先生。

投げつけられた美喜はズビシャッ！とチョークを人差し指と中指で受け止め、握り潰す。

「つまんない。他の問題出して。しゅーイチのヤツ。」

漢のマロン（ロマン）が花と散る…

授業終わり18分前に立ち直った教師、続ける

「…1+1=？」

「10！」

「なんでそうなる！？」

紫色の顔に変化する…うわー…。

「－＋１＝十やん！」

すかさず先生攻撃（先制攻撃？いえいえ、後攻です）

「文字計算かい！普通に計算せい！」

「なんでなん？ココお笑いのガツコだよ？」

「通常授業はきちんとせな、国に高校として認められないの！」

「チエつつまんない」

美喜は経験値を2鷹もらった！レベルが1上がった！？（聞くな

神様起床。とにかく、寝ぼけてるわけではないね、神様神様は次回

戦闘開始！

美喜の やったよ！春爛漫！（らんまん）（前書き）

お笑いで母を倒し、お笑いレベルが低かったり高かったりしてたら
神の力を得た！前は神様が寝てたので、今回は馬車馬のごとく働
いていただきます！

美喜の やったよ！春爛漫！（らんまん）

お笑い授業

作者お笑い能力無いたためスルー。ほんまスミマセン

おはようございます、こんにちは、こんばんは、今回の天の声、
たけ”です（あんた誰？

お前の神だ！このバカ神！（な、なんだって〜！？

ふん！恐れ入ったか！俺はゴッド・オブ・ゴッド（変な名前

”たけ”だって言ってるだろ！？っていうか、まったく恐れ入って
ねえ！？（…っけ

鼻ほじんな！このガキヤー！（さっさと始めるバカ神。カメラまわ
ってんぞ。

ま、マジ！？俺、いきなりピンチ！？（ご愁傷様たけくん 残念、
たけくん

バキツとな（死

コホン…夕焼け小焼けの放課後…（いきなりだな、おい。

「じゃ、補習はとんずらして帰りますか、千景さん」（さりげな
く怖いことしてますね。

「あらやだわ〜美喜さん」（おばさんの井戸掘りみたいだね
井戸端会議だ、どアホ。

美喜はロッカーを開ける（ラブレターが…？

（美喜の やったよ！春爛漫！（らんまん）

ラブレターは、無かった。（なんだよ…

「やあ、美喜さん」

ああ！（なんだ！？

100円みつけ（くたばれ？《笑

ジューズ買えない…（神なら生み出せよ。話戻せよ！

美喜は、クラスメイトがいたので声をかける。

「弱竜！」（そこ！？そこなの！？そこでアニメキャラ出るんだ！？っていうか、弱竜クラスメイト！？

弱竜、出ねえよ。（なんだよ…

美喜はごめんちゃい　と頭をコツンと小突く。（可愛くないがな。

「やほ、百鬼君」（なんか強そうですね！？

だって百鬼だもん（ハラショー！

「美喜さん、夕焼けをバックにチャリ二人乗りしようぜ！」（道路交通法違反！

「あら、ス・テ・キ」（ノリノリじゃねえか！千景を置いてくなよ！

「でも残念」（千景を思い出したか、美喜！

「あなた、汗臭そうなのよ」（酷っ！

「人を見かけで判断するな！」（おやおや、百鬼君怒りだしましたよ？

「ならあ…」

美喜は女の武器だと言わん限りのクネクネポーズをする（キモッ！あと、千景が泣き出しそうです。

「人差し指スクワットしたら付き合ってア・ゲ・ル」（好みのタイプじゃないらしい。

「美喜、調子ノリ過ぎ。百鬼君かわいそうよ」（お！まともな人間一人。

「できるか！」（できませんか？

「なら、付き合わない　い　私と付き合うためなら、指の2本くらい折れるわよね？」（極悪非道だよ！！

「ぐう…あいわかった！やるぞ！」（やんの！？

「痛でっ！？」（ポキッとな。

「イギャー！…ゼイゼイ…ハアハア…ど、どうだ！？」（弱っ！百鬼弱っ！）

「スクワットできなかったからダメ」（もはや弱鬼やな）
「なんやそれ！？もうええわ！」

美喜は”たけ”と神のおかげでレベルが8上がった！

たけ&神&弱鬼&美喜：ありがとうござ
いました

完

私の挨拶は！？ 千景

美喜の崩壊後（放課後）バンバン（前書き）

美喜はお笑いで母を倒し、お笑いレベルが低かったり高かったりしてたら神の力を得た！

しかも、百鬼に告白され、美喜は百鬼を人差し指スクワットの刑に処す。百鬼に未来はあるのか！？（そんな話が続くわけではありません）

美喜の崩壊後（放課後）バンバン

「美喜！ ひどいじゃねえか！」

「わかったわよ、親友から始めましょ」

「じゃあ！」（原画家のしゃあさんのことではありません。）

百鬼はガッツポーズをしつつ跳ねる。

「器用な男ね……」

千景は、存在感取り戻すために、必死に爽やかガールを演じた。（
うっさいわよ！

それでもって下校……

美喜は、三人で帰り、途中ちよつと恥ずかしがりながらそこはかとなく言った。

「でも、大事なことは気軽に気が合う千景が良いな」

「美喜……」

友情とは、信頼という大地に立つ一輪の天花。

千景は、うつすら涙を浮かべて微笑む。

と、その笑みを返された美喜は、手を差し出す

「……なに？」

「いいこと言ったから、なんかちよーだい」

「逝ね」

千景は拳をプレゼントした。チャチャチャラン

美喜の崩壊後（放課後）バンバン

公園で道草をもしかもしや食べた帰り道、同じクラスの優等生みつ

ける。(どつちかっていうと、草食べたネタを知りたい所だ。

「あ！ あれは生徒会長の出来無差杉じゃない？」(どこからどこまでが名字なんだ……？っていうか”できなさすぎ”って……そこは……)

「ねえ、あの店……」

「ああ、間違いない」

(酒屋だな。

美喜は目を輝かせて言う。

「からかいに中に入ろう！ 私一番！」

「すみませーん。樽に入ったお酒ないですか？」

「すみませーんそれは無い……で……す？」

そこは出来無差杉の実家だった。チャラらん

「ずいぶん若い声…… お笑い学院の制服じゃねえか！ 帰れ帰れ！」

美喜は文字通り、首をつまみ、外に出される。これがホントのつまみ出し。ダラダダダ～ン

「ごめん……！」

美喜脱兎のごとく逃げ出した！

美喜は人としてのマナーを落とした！ 一億パケを落とした！

「ただいま～って、もうお母さん死んだんだっけ」

「おかえりー」

なんと！ 母が目玉焼き作ってた！

「生き返った！？」

「うおっす！ オラ○悟空！」

「変身済み！？」

「アイヤー！ 略してウルトラスーパーグレネードランチャー！」

「チャイニーズ！？ しかも略してないよ！？ 全然略されてないよ！？ 名前変わってるし！」

「うん、一万分の一に略されてるね」

「聞いてないし！」

「しかも夜目玉焼き！？　なぜにWhy？」

「朝じゃなきゃいけないなんて誰が決めたんですか？　何月何日？　地球が何回回った日？」

「くっ……」（さすが母だな

「……あ！　夜だから牛乳が良い？　安眠促進」

「ああもう！　めちゃくちゃだ！　私も押しすぎて失敗したのよ！　少しは引つ込め！　メガトンヘッドアタック！」

「グハッ」（なんで美喜が殺られてる！？

「母ver.5.04！　骨格はダイヤモンド！　るるるるるるるるるる　私の頭、ダイヤモンドー（マクロー！？」

（硬っ！　反○弾でも壊れない！？　美喜！　なんか頭からトマトジュースがドクドク流れてるぞ！？

「殺す！」（つていうか母とバトルする娘っていったい！？　お笑いの神様は意外と常識人

「私には、超えなければならぬ母がいる！

だから……死ぬわけにはいかないんだ！」

「チュー」（聞きたくないが聞いてやろう。何をしてる？

美喜は満面の笑みで言う。

「輸血（はあと」（頭から出たトマトジュースを吸って輸血できるか！

「できるのよん　私たち、格闘お笑い芸人の血筋で、流れる血はトマトジュースだから（はあと」（さらっと怖いこといつてるし！

プロ○カルチャー！　プロトカルチャーだよ！　ママン！　神様脱兎

美喜はやかましい神から解放され、得意げに言う。

「ふっ……私たち親子の漫才でお笑いの神様を倒すなんて……」

「ホントね……あなたなら、いつかこの日が来ることを信じていた。娘よ！」

「お母さん！」

二人は抱きしめあつて涙を流した。流れたのは水銀！《怖ええよア
ブねえ！！ さりげなく、たけ

その後、たけは二人をお笑いの王女と女王にし、王は弱鬼！

《ヴァンパイア生まれそうだな、おいw

そして10年後美喜、お笑い女王になる

エンディング歌

毎日毎日ワッハッハッハッ お笑いだ〜

みんなの味方はお笑いだけ〜

（怖すぎるよ！ こんな歌！

今日もどこかでツツコミがでる…

がんばれ！ お笑い市民！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0984f/>

お笑い学院高等部

2010年11月20日02時58分発行